

科目		動物看護総合実習		
担当講師 大川 恵子 実務経験有 統一認定動物看護師免許 動物病院総師長 専門学校卒業後動物病院に動物看護師として 30 年従事 担当講師 白石 史絵 実務経験有 統一認定動物看護師免許 動物病院師長 動物病院に動物看護師として 20 年従事 担当講師 合志 潤子 実務経験有 統一認定動物看護師免許 動物病院看護師長 動物病院に動物看護師として 20 年従事				
開講年次		授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科 2 年次前後期		実習	必修	180
授業目標 今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な看護を学ぶと同時に動物看護師としての意識を身に付ける。授業内容は臨床現場の状況により変更有 授業概要 動物看護の実務を様々な業種から多角的に捉えた実習を行なう。				
成績評価の方法 評価の基準は実習レポートと筆記試験による。また本科目受験には出席率が 3 分の 2 以上であることが必要。試験は 80～100 点が A 評価、70～79 が B 評価、60～69 までを C 評価とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし評価は C となる。				
教 材 動物看護コアテキスト 6 巻 (P1～372 ファームプレス) 動物看護実習テキスト (P1～262 インターズー)				
授業計画 月曜日 (1～28 回) 3・4 限目 13:20～14:50 15:00～16:30 金曜日 (29～ 3 限目 13:20～14:50)				
回	テーマ	授業内容		
1	学習者としての相応しい態度	身だしなみ・身なり		掃除
2	食事	食事に関する看護・技術		〃
3	〃	〃		〃
4	排泄技術	排泄のケア		〃
5	〃	〃		〃
6	活動・休息・援助	動物病院で必要な活動休息援助技術		〃
7	〃	〃		〃
8	身体の清潔・援助	身体の清潔・援助技術		〃
9	〃	〃		〃
10	呼吸・循環を整える	呼吸・循環を整える技術		〃
11	〃	〃		〃
12	創傷管理	創傷管理技術		〃
13	投薬	投薬技術		〃
14	〃	〃		〃
15	症状・生理機能管理	症状・生理機能管理技術		掃除
16	〃	〃		〃
17	感染予防	感染予防への配慮と技術		〃
18	〃	〃		〃

19	安全管理	安全管理への配慮と技術	〃
20	〃	〃	〃
21	コミュニケーション	必要なコミュニケーションについて	〃
22	〃	〃	〃
23	医療チームの一員として相応しい態度	医療チームの一員としての適切な態度	〃
24	動物病院に必要な環境	環境整備の実践	〃
25	周術期（手術前後）の看護	周術期の看護技術	〃
26	まとめ	まとめ	
27	まとめ	まとめ	
28	まとめ	まとめ	
29	身体検査	飼育動物の身体検査、保定	
30	カルテ用語、記入	基礎情報診療内容をカルテに記入	
31	手術管理	術前、術中、術後のモニタリング準備	
32	医薬品の取扱い	正しい取扱い、管理、廃棄について	
33	〃	調剤、薬用量計算	
34	創傷管理、包帯法	それぞれの管理、手技	
35	衛生管理、入院管理	滅菌、消毒、殺菌、感染動物の取扱い	
36	輸液管理①	輸液概論	
37	〃 ②	輸液動物のモニタリング	
38	〃 ③	輸液準備、静脈確保実習	
39	血液について	血液塗抹標本作成	
40	心電図について	心電図のしくみ、モニタリング	
41	疼痛の基礎知識	疼痛の種類、特徴、管理	
42	重症動物の栄養補助	栄養チューブ、カテーテル給餌	
43	処方食	それぞれの疾患に合わせた食事	
44	腫瘍	腫瘍の入院管理、注意点	
45	身だしなみ、掃除の必要性		
46	動物看護師として心構え、役割		
47	保定の必要性、役割		
48	保定実習		
49	エキゾチックアニマルの生態、特徴、保定など		